

令和5年度 我孫子中学校 全国学力・学習状況調査 分析結果

3年生を対象に実施した、全国学力・学習状況調査の分析結果を以下に記載しますのでご覧ください。

【国語】

○令和5年度の調査結果の分析

I. 調査結果にみられる特徴と現状分析

「書く」「情報の扱い方に関する事項」の2つは、県平均値を大きく上回っている。「書く」については、これまでの授業や定期テストを通して、作文の経験の積み重ねの成果だと考えられる。

昨年度「話すこと・聞くこと」が県平均値を下回ったが今年度は平均を上回った。話し合い活動の取り組みを十分に行うことができるようになった成果だと考える。

II. 改善目標

文章を読み解く力を育てる。

III. 改善方策

普段の授業の中で、ワークシートなどを使いながら、個々で読み取る時間を積極的に設ける。

IV. 検証方法

文章の構成を捉えたり、根拠となる部分を探し、説明させ、読み取れているか確認する。

○令和5年度、令和4年度、令和3年度の調査を比較した分析

I. 調査結果にみられる成果と課題

一昨年、昨年に比べて、多くの項目の正答率が上がっていることが読み取れる。「情報の扱い方に関する事項」の正答率が全国平均より高い。これは、書く場面を増やしていることや、学校全体でICTに触れながら学習をする機会が多いことが影響していると考えられる。また、生徒の中で話し合い活動を多く実施し、教え合いながら学ぶことへの抵抗がなくなってきたことも影響している。

II. 改善目標

根拠を明確にして話す力、批評しながら話を聞く力を育てる。

III. 改善方策

自分の意見・考えを発表したり、他者の意見・考えと自分の意見・考えを比較する機会を設ける。

IV. 検証方法

グループでの話し合いを通して、意見と根拠や共通点と相違点を見つけられたか確認する。

【数学】

○令和5年度の調査結果の分析

I. 調査結果にみられる特徴と現状分析

全ての項目において、全国平均を上回っている。図形やデータの活用では全国平均よりも高い値となった。一方で、数と式については他と比べると低い数値であった。単純な計算は得意としているが、教科書通りの考え方でしか理解していない。数学的な関心が低いため、様々な視点から問題をみることができていないようである。

II. 改善目標

1つの問題に対しても、様々な視点で考えられるような思考力を育てる。

III. 改善方策

数学への関心を高める必要がある。そのために、友達と意見を交換する機会などを設ける。また、数学の学習と日常生活や社会活動とを関連付けて考えさせたり、数学の便利さを実感させたり、数学的な考え方を学級活動に取り入れたりする。

IV. 検証方法

普段の授業での課題を通して、グループワークを行い様々な意見が出るようになっていくかを確認していく。

○令和5年度、令和4年度、令和3年度の調査を比較した分析

I. 調査結果にみられる成果と課題

一昨年、昨年に比べて正答率がやや向上している項目が多いことが読み取れる。データの活用に関しては、全国平均よりも年々高くなっている。これは、ICTを活用し実際に生徒に触れさせながら取り組むことを行っている成果であると考えられる。一方で、数と式の項目では全国平均は上回っているものの、昨年度よりも肉薄している。普段の計算練習では解ける生徒が多いが、自分で式を立て関係性を表すことなどが弱いため教科書だけの模範解答だけでなく、様々な発想ができるようにする必要がある。

II. 改善目標

1つの問題に対しても、様々な視点で考えられるような思考力を育てる。

III. 改善方策

数学への関心を高める必要がある。そのために、友達と意見を交換する機会などを設け、わからない事を友達に聞きやすい環境をつくる。

IV. 検証方法

普段の授業での課題を通して、グループワークを行い様々な意見が出るようになっていくかを確認していく。

【英語】

○令和5年度の調査結果の分析

I. 調査結果にみられる特徴と現状分析

多くの項目において全国平均を上回っている。特に書くことについては、習った言語表現を使って作文を書く練習に多く取り組んできたため、その成果が出た。一方で、読むことの項目が他の項目と比べて低いのは、単語力の低さ、速読の練習等が不足しているためと考える。現状、速読に関する教材を使っていないので、新しい教材を考え、取り入れていく必要がある。

II. 改善目標

単語力、速読の力をつける。

III. 改善方策

定期的な単語テスト、教科書以外の文章を読む機会を作る。

IV. 検証方法

多くの文章にふれさせる、友達同士で読み合えるようにする。

※「英語」は今年度のみの実施のため比較分析はありません。

【アンケート】

○令和5年度の調査結果の分析

各教科への関心、の項目が全国平均を下回っている。「規範意識」は平均より高いため、授業を受ける態度等、現在大きな問題はないが、自主的かつ前向きに授業に取りくめる生徒が少ない現状がある。今年度は総合学習において「探究学習」を実施し、自ら課題を決め、深く調べることの楽しさにふれることが生徒もいた。探究することの楽しさを教科横断的に伝え、学習への関心を高めていきたい。

○令和5年度、令和4年度、令和3年度の調査を比較した分析

各教科への関心は、下がっている。どちらの教科においても生徒の問題の正答率が高いものの、自ら前向きに学ぶ姿勢が低い現状がある。教科内の研修を増やし、実生活に結びつく導入の工夫を考えていく必要がある。生徒がわかったと思えるような機会を増やし、「自己有用感」が高められるような授業展開を考えていく。

探究し、深め、発表する機会を増やし、主体的に学ぶことの楽しさや大切さを様々な教科の中で伝え、学習への抵抗を無くしていく必要がある。